

「工学研究マネージメント学習プログラム」への参加の勧め

工学府長 福富 洋志

文部科学省は、現在若手人材の育成に非常に力を入れています。博士号取得前後の若手研究者に自立を促し、活躍してもらうことを望んでいるからです。本学工学府ではこのことの重要性に以前から着目しており、「研究の企画立案、研究資金獲得、研究資金を管理しながらの研究の遂行、そして成果の社会への公表と還元」という一連の流れを経験してもらうための「研究のマネージメント」を学ぶ表題のプログラムを、すでに 10 年間継続しています。本年度も、博士課程後期の学生を対象に、このプログラムを実施します。

本プログラムは、皆さんが研究の企画立案をして、プログラムに応募することから始まります。博士号取得のために行っている研究ではなく、そこから派生してくる問題、関連があって興味深い問題、興味はあるけれど費用の点で躊躇している問題、などに対し、自分の力で解決してやろう、という気構えでこのプログラムに挑戦して下さい。研究がうまくいったら、指導教員の先生と相談して、博士論文の一部に組み入れることもできます。

研究課題が決まったら、年度内に結果を出すための実施計画を立て、そのために必要な費用を見積もります。その時、交付される予定の研究費の範囲内でどのような形で研究を遂行するか、実施計画を調整しながら考える必要があります。

研究費は、もとは税金です。従って、得られた研究成果は最終的には社会に還元することが求められますし、また公正に使用する倫理観が必要とされます。本プログラムの研究費の使途は、

- ① 研究の成果発表や周辺領域の研究動向調査のために、外国等で開催される学会・シンポジウムに出席するための旅費や参加費
- ② 研究に使う薬品や部材、部品などの消耗品
- ③ その他（①、②以外の使途については、使用可能かどうか係に問い合わせること）

など、研究活動に密接に関連したものに限られます。また、研究のためであっても、国内における現地調査やインターンシップに要する旅費・滞在費、パソコンおよび周辺機器、備品となる装置や機械、汎用ソフト、書籍、研究協力者等に支払う謝金などには使うことができません。

研究期間が終了したら、自分たちで成果報告会を開きます。また、研究を進めるにあたって、すでに社会で活動している先達の意見や考え方を知るのも大切なことです。本プログラムでは、プログラム参加者が、専攻・コースを越えて協力することによって成果報告会や講演会を開催することもプログラムの一部となっています。プログラムがスタートしたら成果報告会・講演会の計画、および講師の依頼などを早めに行うことが必要です。講師には、特定の分野の研究者というよりも社会的に問題になっていることに関する識者をお願いするよう、プログラム参加者の皆さんでよく相談してください。計画が決まったら、工学府教務・図書委員会のサポートを受けて、日時・場所を確保し、適切な方法でアナウンスし、講演会と成果報告会をセットにして開催してください。

成果は単に報告するだけではなく、印刷物の冊子体あるいは CD などの形で残すことも可能です。このような活動は、将来社会に出て活躍するために、非常に有益な経験となるでしょう。そして、この一連の活動を最後までやり遂げると、特別研究の単位のための活動として認定されます。

近い将来研究者として社会に巣立って行く皆さんには、学生時代にできるだけ多様かつ有益な経験を重ねて欲しい、そして将来は世界を舞台に大活躍をして欲しい、と願っています。そのための最初の一步として、皆さんのこのプログラムへの積極的な応募と活動を心から願っています。